

東南アジアの自然と農業研究会

第 105 回研究例会のご案内

第 105 回定例研究会を開催いたします。今回は、秋田県立大学生物資源科学部の川合 信司氏に下記のように報告していただきます。年度初めのあわただしい時期かと思いますが、皆様の多数のご参加と活発な討論を期待してお待ちしております。

記

日 時： 2002 年 4 月 26 日（金）午後 4 時～午後 6 時

会 場： 東南アジア研究センター 東棟 2 階第 1 教室

京都市左京区吉田下阿達町 46

川端通り荒神橋東詰め

話題提供者： 川合 信司 氏

話 題： 「空白地帯からの開発援助レポート

- イリアン・ジャヤ州先住民の視点を探る - 」

要 旨：私は、1992 年に初めてイリアン・ジャヤ州（現パプア州）を訪れる機会に恵まれた。もともと園芸学を専攻していたのであるが、4 年間、草の根的な地域開発援助（community development）に携わることとなった。そこで、様々な失敗例や被援助者との軋轢がなぜ生じるのかを探求する必要性を強く感じた。そして、その大きな要因の一つとして、先住民社会のもつ固有の経済システムや価値観に対し、外部者が無頓着であるという問題があることに気づき始めた。外部者のもたらす開発援助に対する被援助者の視点は、一体どのように形成されるのだろうか。

本報告では、自著のフィールドノート『先住民社会と開発援助 インドネシア イリアン・ジャヤ州ドミニ集落の事例』で扱った事象を中心に、被援助者の社会像を概観しながら、被援助者の行動を規定する要因を見出すに至った過程を提示する。そして、外見上、外部者主導で開発援助が進められているようであるが、実は、被援助者は、独自の経済的、文化的価値観に則って外部者や開発援助を見据え、「合理的」な行動を起こしていることを、具体的な事例を示しながら明らかにする。限られた事例研究にもとづく開発援助に関する考察に対し、地理的、そして分野的にも広範な視野を持つ諸氏からの率直な批判とご教示を仰ぎたい。

問い合わせ先： 富田晋介 京都大学農学研究科熱帯農業生態学研究室

Tel. 075-753-6352 mailto: tomita@kais.kyoto-u.ac.jp

柳澤雅之 京都大学東南アジア研究センター

Tel. 075-753-7345 mailto: masa@cseas.kyoto-u.ac.jp

ホームページ： <http://rtomita.kais.kyoto-u.ac.jp/~sizen/>